同好會々報

●京都での臨時總會

本年の日本學術協會が京都で開かれる機を利用し、本會も臨時總會を京都に開く。日は **十月十五日から同十九日まで。** 場所としては主に三條通りの**青年會館**内。まづ

天文展覽會——上記五日間、毎日午前九時より、午後四時まで開場（入場者は靴又に草履に限る）——一般會員より出品を歓迎す。但し出品申込は十月十日限り。

(1) 國内及國外の天文に關する圖書の陳列
(2) 天文器械及び模型の陳列
(3) 天體の寫眞や圖表の陳列

協議懇談會——十月十七日(日)午後五時より

(1) 會の事務や會計に關する報告
(2) 會則の改正
(3) 新計畫協議

之れを終つて、地方よりの會員を招待して**紀念晩餐會**(午後七時に終る豫定)

大講演會——十月十八日午後四時より午後六時半まで

講演 「**世界に於ける太陽研究の近況**」
(山本理學博士)
「**宇宙としての渦巻星雲**」
(能田理學士)

天體觀望會——十月十八日(月)午後七時半より、京都大學天文臺にて

火星。木星。アンドロメダ星雲。ペルセ星團。ミラ星のスペクトル。

●倉敷天文臺の 三十二センチ反射望遠鏡は愈々去る七月二十三日商船グレンガリー號でロンドンから積み出されたとの報知が本部に到着した。多分九月中には神戸に上げられるだろう。そして直ぐ倉敷に運ばれるとすると、今秋の火星と木星の觀測のためには間に合ふだろう。觀測室はどうせ急には出來ないだろうから暫らくはバラクに入れられるだろうが。

●「標準天文讀本」 山本一清博士は教科書用として此の標題の書物を目下執筆中であろ、可なりしつかりしたものであるが、皆で250頁ぐらゐの豫定で、型は菊版。之れに多數の表と圖と寫眞とを加へ、尙ほ目次や索引を完全にして、多分來る十月には完成される見込み。

●本會の中央圖書室 本會は事務室のある三條青年會館の一部に中央圖書室を設け天文に關するあらゆる圖書を備へ、一般人士の閲覽に便することゝした。但し、會員は入場隨意。會員以外の人は會員の紹介を要す。

●倉敷天文臺の初めての觀測會

新着の33センチ反射望遠鏡を一般に紹介しかれて天文學の普及のため、來る十一月二十一日(日曜)の夜十時から倉敷町の同好會天文臺に於いて天體觀測會を開く。折柄、地球に接近中の火星を主として見る筈。

○岡山支部六月の活動

五日。午後八時から、支部で天體觀測會。

九日。午前十時から、笠岡商業學校で「時の記念日」講話會が催されたので、水野幹事は出張下記の講話を試み、尙ほ夜分は天體の觀測會が催された。

1. 時計としての北斗 (高學年生に)
2. 標準時。太陽系の發見物語。(低學年生に)

十二日。午後七時から宮原幹事宅で「天界研究會」が催された。

十五日。午後八時から、支部で天體觀測會。

十九日。午後一時金光中學校で講話會が催され、下記の講話があつた夜分の實地觀測には水野幹事が指導し、午後十一時頃迄を熱心に觀測され木星の出現を待つた有志の人もあつた。

1. 時刻の定め方　宮原六高教授
2. 土星について　水野支部幹事
3. 天文幻燈　同上　説明

二十日。午前金光中學校長宅で、太陽の黑點を觀測した。夜分はラヂオで、山本博士の天文講演の最終の「大宇宙小宇宙」を有志會員と共に聽いた。

二十一日。關西中學校で天體觀測。

二十二日。支部で天體觀測。

二十三日。午後八時から、眞備女學校で天體觀測會が催され、水野幹事は天を仰いで「星座」に就いても話した。

二十六日。水野幹事は倉敷に出張して、原名譽會員と天文臺候補地を視察した。
二十七日。山本博士西下の途。岡山驛を通過さるゝによつて、水野幹事は倉敷天文臺について諸種の打合せをした。

○水野幹事の渡臺。 來七月二十四日神戸出帆の蓬萊丸で、千枝子孃を伴ひ、「星見物」の爲めに渡臺、臺灣支部を訪ひ、嘉義に回歸線通過地を尋れ、高雄で南天の星を觀望し、歸途は汽船で臺灣の東岸を廻り基隆を經て、門司に上陸八月下旬に歸岡の豫定である。旅行記は「北から南へ」何れ「天界」に載せられる筈。

事務室より

本會の經濟狀態については前號に記載する筈であつたが編輯部の都合上本號に讓つた。
創立以來——今日(六月末日)迄の未拂金(書籍代、出版物印刷費、原稿料、編輯料)合計が ₤2645.21 であつて、未收金(會費、廣告料)及寄附金の合計 ₤2029.90 である。これを差引けば ₤615.31の負債が殘るわけです。
而もこの整理は可なり急に迫つてゐるのでどうか愛する會の爲に各自御發奮下さつて會費停滯などのない樣御注意下さると共に寄附金の方もお願ひする次第です。——會計。

本會經常費負債整理金寄附者芳名第二回報告(自六月一日至六月末日)

金貳拾圓也	京都	上田 穣氏
金拾圓也	神奈川	近藤 兵吉氏
同	大阪	田村 彝氏
同	同	赤司 健之氏
同	岡山	森本 慶三氏
金五圓貳拾錢也	東京	早乙女清房氏
金五圓也	上海	原田雄之助氏
同	福岡	大内 忠藏氏
同	鹿兒島	桐原 豐二氏
同	神戸	R. Schofield 氏
同	同	森下助次郎氏
金參圓也	香川	三崎 善平氏
同	東京	村上計二郎氏
同	北海道	宮内啓三郎氏
同	臺灣	長尾 正元氏
同	大阪	河合 星玉氏
同	神戸	C. Dresser 氏
金貳圓也	島根	布野 正逸氏
同	大阪	井伊 秀勇氏
同	同	守口虎之助氏
同	金澤	池 亮吉氏
同	岡山	見藤佐平氏
同	神戸	小穴匡雄氏
同	同	種村州三氏
同	同	三浦義藏氏
同	同	分部 坦氏
同	同	河内 朗氏
金壹圓參拾錢也	滿州	村越美惠氏
金壹圓	東京	田村幸太郎氏
同	同	四方政吉氏
同	朝鮮	柳永模氏
同	神戸	荻坂伊勢野氏
同	同	池上孝一氏
同	同	井上隣太郎氏
同	同	北條正治氏
同	同	小澤清躬氏
同	同	吉岡常雄氏
同	同	吉田卯一郎氏
同	同	山村 清氏
同	同	藤原督弘氏
同	同	小松 衡氏
同	同	榊原康吉氏
同	同	森田良雄氏
同	同	橋本正一氏
金五拾錢也	同	林定一氏

計壹百四拾六圓也　以上四十五氏
累計四百參拾九圓參拾錢也

消息

●津田雅之氏 本會々員の同氏は夏期休暇を利用して、富山縣に歸省中、高岡市に於いて小學校理科研究會に招かれて、數回にわたり天文講演を試み、又、15センチ中村鏡にて天體の實地觀測を指導せられた由。

●山本一清博士 既報の如く、去る七月一日から滿鐵の招きにより、大連、鞍山、撫順、奉天、安東の五ヶ所で天文講演をせられ、尙大連に滯在中は、西岡芳涯氏(會員)の110ミリツアイス赤道儀で大氣檢査のため天體觀測をせられた。七月十九日歸洛。八月二日から同七日までは京都帝國大學内に於いて夏期講演會に「恒星界の天文學」を講義せられた。それから、八月十日には同博士は家族と共に、中村要氏及び渡邊稻葉森川の三大學生(皆本會々員)と同道して鳥取縣岩美郡浦富海岸へ天幕(キヤンプ)生活に行かれ、八月十九日ま

で同地に滯在せられた。此の間、ペルセ座の流星郡や種々の變光星及び日没時の綠閃光等を觀測された。城崎を經て、八月二十二日歸洛ついで、八月二十五日には中村要氏と共に山口縣學務課に招かれて德山町に出張、同地で二十六日から二十九日まで學校教師たちのために「教材としての天文學」を講演。八月三十日歸洛。

●**竹内忠治氏**　本會幹部にして豫備軍籍にある同氏は招集されて去る八月六日歩兵第九聯隊に入營された。三週間服務の上、八月二十七日除隊。

日本學術協會第二回大會日程

（會　場　京都市上京區京都帝國大學構内）

——（特に天文及其れに關係あるもの）——

十月十六日（土）午後一時

第一部演說（第二教室）法學部

○火山の噴出物の成因及び地球核の性質に就て　（三十分）　中央氣象臺理學博士　小野澄之助

○火山には何故に硫黄を噴出するか之につきての明確なる議論はまだ聞かず、又地球の平均密度は地殼を構成する岩石の平均密度より遙かに大なることは古くより知られたる事なり之等の事につき原子構造論を基として考察を試んとするものなり。

十月十七日（日）午前九時

第一部演說（法學部大講堂）

○日本島の海岸地形　（三十分）　東京帝大、理學部理學士　辻村太郎

○日本島に於ける海岸地形の分布を見るに、小區域の間に於ても甚しい變化を示し、氷蝕に關係ある海岸形を除く總ての種類を含んで居る。此等の海岸形は主として陸地の隆起、沈降及び斷層によつて生じ、海面の昇降に基く變化は著しく無い。隆起海岸の分布は本州島北部より北海道に於て著しく、沈降海岸は中國から九州北部で最大の發達を見る。日本海々岸と太平洋海岸とを比較するに、後者に於て隆起海岸の多數が特に半島の尖端部に存在する。斷層海岸は多く海灣及び内海の内側に存在し、日本海々岸の一部に於てのみ外洋に面して居る。

○三回觀測による惑星軌道の確定　（三十分）　東京帝大、理學部理學博士　平山信

○北海道火山近時活動の特徵（幻燈使用）　（二十分）　北海道帝大農學部理學士　田中館秀三

十月十七日（日）午後

第一部演說（法學部第二教室）

○物理學の今昔　（一時間）　東京帝大名譽教授理學博士　長岡半太郎

七月十八日（月）午前九時

第一部演說（第二教室）法學部

○九州の古代三紀層　（三十分）　東北帝大、理學部理學士　長尾巧